

2. 参加者がカードに記入した意見と市の回答・対応方針

①健康・福祉

分類	番号	意見等	市の回答・対応方針
高齢者福祉	1	老人福祉について、少子高齢化の現実を見据えると、もう考え直す時期にきていると考えます。多人数で少人数をカバーすることは可能ですが、少人数で多数を支えることは不可能。少しでも早く真実をオープンすべきだ。	第四期長期計画調整計画を策定する中で、市民の皆様のご意見をうかがいながら検討していきます。
	2	高齢者を弱者と考えず、大いに利用するように(年金の見返り)(安い労働力…タダで) 例;児童の通学路見張り、防犯パトロール、美化若い人は仕事で稼ぎ	高齢者の社会参加については、生きがいづくり、介護予防の観点からも重要視しています。社会参加機会の拡大について引き続き検討します。
	3	商店街の空き店舗を利用して(市で補助)福祉施設(多種多様)を置く。 (理由)高齢者、趣味の交流、ボランティアの情報、障害者の製品など	空店舗を活用した、高齢者や障害者の拠点づくりについては、調整計画を策定する中で、研究していきます。その際には、商店会の考え方も考慮する必要があります。
	4	認知症を対象としたグループホームの不足。現在、武蔵野市では、上記の施設がほとんどなく、施設の建築に関しては、市はどのように考えているのか。国は積極的に進めているが、現実には特養ホームが2ヶ所あるだけでは不十分。	現在、認知症高齢者グループホームは市内に1ヶ所、特養は4か所あります。平成18年3月に策定した福祉総合計画の中では、平成20年度までにグループホーム1ヶ所、特養1ヶ所を増設する計画となっています。
障害者福祉	1	重度障害者のグループホームを作ってほしい。 (理由)障害児の親も高齢化していきます。子どもが成人したら独立していく自然な姿が、障害児の家庭では実現できません。重度障害であればなおさらです。重度であってもグループホームで生活できるようお願いしたいです。	平成18年4月に重度身体障害者グループホームができます。なお、重度知的障害者グループホームについては、今後、設置に向けて検討します。
	2	障害のある子どもが、生まれ育ったこの街で、生涯生きていける街づくりをお願いします。教育、療育、治療、就職までこの街で。障害を持った子が、就職がない為に、親元を離れて地方へ行かなければならない現状に心が痛みます。	障害をお持ちの方の就労を支援するために、平成18年度に就労支援センターを設置する予定です。
	3	生活支援センター「ライフサポートMEW」の存続のための援助・補助を検討して欲しい。 (理由)「障害者自立支援法」施行のため、施設に対する補助金が減額、利用者が負担増を強いられる見通しです。同センターは、利用者の出会い・交流の場として非常に重要です。	
	4	生活支援センターに補助金を増やしてほしい。なくなると行き場を失い、ひきこもりの生活に逆戻りだから。	ライフサポートMEWは、市の委託事業であり、自立支援法による委託料の変更は考えていません。また、ライフサポートMEWは、相談事業なので利用者負担がありません。
	5	地域生活支援センター・ライフサポートMEWについてのことですが、このたび障害者自立支援法により、支援センターの利用者、つまり障害者の1ヶ月の利用料が、1万から1万5千円ぐらいになるのではという話も、支援センターの利用者として、とても心配しています。自立支援とは名ばかりで、ただ今までの利用料(100円)からはるかに高く、利用料を利用者から搾取しているように思います。	

分類	番号	意見等	市の回答・対応方針
障害者福祉	6	精神障害の方も、そうでない人も、相互理解を深めて交流しあえるようなスペース(建物)を、歩いていて普通に瞳に映る所に建ててほしい。なぜなら、人間みな堂々と、表を明るく歩きたいから。	長期計画調整計画の中で検討していきます。
	7	南町に障害者の働く場がないので、作業所を作りたいという声が出た時には、予算がないからといってカットしないで認めてほしい。	障害者計画に基づき、引き続き必要とする作業所の設置を検討していきます。
介護保険	1	介護保険法の改正に伴い、要介護に認定されなかった方は、地域包括センターで、その方にあったプログラムの提示をすることですが、現在行われている事業の活用だけでフォローしきれるのでしょうか？南町は、市の中央にある施設から遠く、通うことが難しい立地にあり、プログラムの提示というだけになってしまわないでしょうか？「健康づくり支援センター」というところを作ったということですが、どのように活用していくお考えでしょうか？	地域包括支援センターで提示するプログラムについては、現在行われている事業の評価を行うとともに、他に有効な事業が考えられないか、また東部・西部でも事業ができないかを含めて平成18年度中に検討します。「健康づくり支援センター」については、地域で参加できる団体・事業をまとめた情報誌の配布や、地域の民間スポーツクラブに委託した運動事業、自宅で行うケーブルテレビや通信教育の体操等を実施しています。
医療	1	医療対策(検診の早期実施)を！	40歳以上の市民の方には基本健康診査(誕生月と翌月)、歯科健康診査、乳がん検診(女性・誕生月と翌月)を、他に子宮がん検診(20歳以上の女性)、肺がん検診(40歳以上)、胃がん検診(35歳以上)、若年層胸部健診(15～39歳)を実施しています。
	2	①災害時医療の拠点はどこか。医師会との連携はどうか。 ②市内の小児医療の状況と対応。 ③鳥インフルエンザ流行時における、地域の高齢者等への支援はどうでしょうか。	①被災の状況により、被災現場及び概ね500人以上収容の避難所に医療救護所を設置し、後方医療施設は武蔵野赤十字病院、杏林大学付属病院、都立府中病院、東京慈恵会医科大学付属第三病院としています。医師会、歯科医師会、薬剤師会との連携体制を確保しています。 ②小児を標榜する診療所は32カ所です。休日については、東京都の二次救急医療指定病院になっている5病院が輪番制で、内科・小児科系の初期救急医療の対応を行っています。また、小児救急体制の充実を図るため、市と武蔵野赤十字病院が協定を締結し、365日24時間の対応をしています。 ③高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、都の関係各機関が連携し発生時における農場関係者や防疫関係者等への感染予防策の徹底を図ることが第一となります。新型インフルエンザが発生した場合は、「東京都新型インフルエンザ対策行動計画」に従って、東京都や関係機関と連携をとりながら体制を整えます。

分類	番号	意見等	市の回答・対応方針
医療	3	ひどい腰痛持ちで、仕事も長時間できず、ゆえにお金もなく、健保すら払えず、病院に行けず、治療はおろか原因すらも分かりません。個人的すぎる要望ですが、無料(もしくは安価)で調べる体制を望んでいます。	40歳以上の市民を対象に基本健康診査(誕生月と翌月)を無料で実施しています。 また、生活保護制度に医療扶助があります。詳しくは生活福祉課にお問い合わせください。 保健センター2階の健康開発事業団で実施している人間ドックは、一般42,600円のところ、市民の方の場合は14,000円で受診していただけます。

②子ども・教育

分類	番号	意見等	市の回答・対応方針
子育て支援	1	2年前に大田区より引っ越してきて、武蔵野には他の区市に比べ、子どもが安心して遊べる場が少ないのに驚きました。 ・屋外…井の頭公園→大人向けの造り、子どもには不適、犬・老人の散歩の場が現状 ・屋内…「あそべえ」→小学生からと利用制限あり、「南町コミセン」→子どもを遊ばせるのには他の苦情が多く、現実的に難しい。 児童館のように、乳幼児、児童と年齢制限なく、子どもが思い切り遊べる場を切望します。	市では、子ども施策の推進を優先施策として位置付けており、平成17年度から21年度の実行計画である「第2次子どもプラン武蔵野」に基づき、123種類の多様な事業を着実に進めております。 さらに、調整計画策定の中で、子どもたちが楽しく遊べる環境づくりに重点を置いて、子育て施策の充実を検討していきたいと考えております。
	2	年齢制限なく、兄弟を一緒に連れていける、子どものための施設がほしい(体育館、読書室、赤ちゃんコーナー、飲食できる部屋、芝生の広場、砂場etc)(0123、あそべえ、コミセンは利用しづらい)	0123は、基本的に0～3歳児とその保護者のための施設です。0～3歳児と一緒に来る4歳以上の兄弟の参加も認めています。 しかし0～3歳児と4歳児以上では体格や遊び方に違いがあることから、保護者の方は、利用に当たって十分な目配りをお願いしています。 「あそべえ」は、子どもたちの放課後対策充実施策の一つで、参加できるのは開設小学校の在籍児童とその学区に住む小学生(私立・国立など)です。 ご意見については、第四期長期計画調整計画策定の中で検討します。
	3	吉祥寺駅周辺に、幼稚園児が利用できる児童館又はプレイルームなどを作ってください(特に雨の日、真夏、冬に利用したい)。	児童館構想については、市民参加で策定された、これまでの長期計画において、桜堤児童館を中心として、各コミュニティセンターを活用した巡回児童館などのサービスを全市的に推進していくとされてきました。
	4	東部地区にも児童館を作ってほしい。(理由)：あそべえでは力不足。発展させて児童館を作ってほしい。桜堤だけでは不公平。あまり使われてない、どんづまりの苗木公園が適当と思われる。	児童館の今後のあり方については、調整計画を策定する中で市民の皆様のご意見をうかがいながら検討していきます。 「あそべえ」は、市立小学校12校で、教室開放、校庭開放、図書室開放を実施しています。今後、子どもたちにさらに充実したプログラムを提供していきます。

分類	番号	意見等	市の回答・対応方針
子育て支援	5	<p>小学校1年と5歳の男の子がいます。南町に越して1年が過ぎますが、親の手から離れていく、特に小学校低学年～中学年の子どもたちの遊び場が不足していて、大変困っています。井の頭公園は不特定多数の利用者、目が行き届かない等、子どもだけでは遊ばせにくい所、危険もあります。子どもたちの日常は、日々誰かの家に集まり、テレビゲームをするという、あまり好ましい状況ではありません。また母親の負担も大きな問題です。南町コミセンの室内、屋外のスペースを、どうか「0123」に続く、小学校2～3年くらいまでの子どもが安全に遊べる場所として利用できないでしょうか。</p>	<p>調整計画を策定する中で、市民の皆様のご意見をうかがいながら、子どもたちが楽しく遊べる環境づくりの充実をしていきたいと考えております。</p>
	6	<p>南町コミュニティセンター内の子ども遊び場の充実を！屋上を利用した遊び場活用はできないのでしょうか(屋上に屋根をつけていただくことはどうでしょうか)。</p>	<p>子育て相談と親子遊びの指導を行なうコミセン親子ひろば事業を実施しています。南町コミュニティセンターの屋上は、構造的に遊び場としての活用は困難です。センター内の遊び場機能については、管理運営をしている当該コミュニティ協議会とご相談ください。</p>
	7	<p>子どもが利用しやすい施設を作ってください。幼稚園児と中学生の居場所をぜひお願いします。中学生については、非行に走らないためにも、遠慮なく遊べる(ボール遊び等)場所が必要です。</p>	<p>乳幼児を持つ親の子育て支援施設として自由来所型の0123吉祥寺・はらっばがあります。異年齢の児童・生徒の遊び場や居場所については、長期計画調整計画の中で検討します。</p>
	8	<p>今の時代は子ども関係の事件が多く、胸が痛みます。親にとって子どもを外で遊ばせるのにも不安と隣り合わせです。かといって家に閉じ込めておくことは、子どもの成長にもマイナスです。親が安心して子どもを遊ばせることのできる場所と考えるとどれだけあるのでしょうか。また、子どもの成長にとって何が必要なのでしょうか。いろいろな経験と叱られたり、教えられたり身近で見守ってくれ、関わってくれるたくさんの人たちの存在だと思えます。南町コミュニティセンターに限らず、コミュニティセンターは地域の方が集まる場所です。そういう場所に児童館機能を備えることはできないのでしょうか。核家族化が進む現在、1つの場所に小さい子どもからお年寄りまでが集まり関わりを持っていくことで、子どもは地域のことを学んだり自然に人と人とのつながりを身につけていくこともできます。また、大人にとっては、みんなで子育てをしていくことのできる大切な場にもなると思えます。</p>	<p>子育て相談と親子遊びの指導を行なうコミセン親子ひろば事業を実施しています。児童館的機能や地域における子育ての問題については、長期計画調整計画策定の中で検討します。コミュニティセンターの規模によりスペースの確保が難しいことと保育士の常駐等の問題を解決する必要があります。</p>
	9	<p>少子化総合対策を早急に立案 住宅コスト、医療コスト等が高く、高齢者には良いが、子育てはしにくい現状を改善する。</p>	<p>市では、子ども施策の推進を優先施策として位置付けており、平成17年度から21年度の実行計画である「第2次子どもプラン武蔵野」に基づき、123種類の多様な事業を着実に進めております。</p>

分類	番号	意見等	市の回答・対応方針
子育て支援	10	子育て期間中(義務教育期間中)の助成をしていただきたい。 ①住民税の軽減 ②私立幼稚園の助成金の増加 ③産前産後のヘルパーの無償化等 ④中学校給食早期実現	①住民税の課税は、地方税法やそれに基づいた条例によることとされています。子育て期間中につきましては、扶養親族のうち年齢16歳以上23歳未満に該当する場合は、控除額が加算される一定の軽減措置が設けられています。 ②私立幼稚園の助成金の増額は、他市との均衡から増額は困難です。 ③現行の産後支援ヘルパーの利用料金(1時間500円)はリーズナブルであると考えています。 ④中学校給食については、18年度に保護者や市民の代表を交えた検討委員会を設置し検討し、19年度を初年度とした中学校給食実施計画づくりを目指します。
	11	私立幼稚園の助成金アップ	他市との均衡から私立幼稚園の助成金の増額は困難です。
	12	所得制限なしで、出産費用の補助もしくは無償化。(金額の負担が多く、出産をためらう要因に)	他市の状況を調査し研究します。
	13	子どもたちの登下校時の安全強化をお願いします。	現在市民安全パトロール隊50人でパトロール活動を実施していますが、18年度は各地区4人ずつ増員(全体で12人増員)して子どもの安全を確保していきます。また、ホワイトイーグル車を1台増車し、安全対策課職員によるパトロールを実施するとともに緊急時の出動に備えます。 学校においても、教職員や保護者、地域の方々をお願いしての通学路周辺のパトロールの強化や、子どもを一人にしないために集団で下校させる体制づくり、教職員が実際に歩いて通学路の要注意箇所の確認などを実施しています。また、平成14年度から小中学校の用務員を2人体制とし、登下校時に校門前に立って警備にあたらせているほか、防犯カメラや緊急警報装置の設置、不審者から児童を守るためのマニュアル整備など、学校における危機管理体制の整備に取り組んでいます。また、境南小学校や千川小学校では、児童自身が通学路や周辺の危険箇所を歩いて点検した「地域安全マップ」の作成に取り組んでいます。 自転車道の設置については、歩行者との共存も含め、検討してまいります。
保育園	1	保育園の冷房についてもう1度考えていただきたい。	調整計画のなかで論議していきたいと考えています。
	2	1度、市長が各園を回って話し合いをしてほしいです。前市長の時は、話し合いではなく報告という感じでした(話し合いでお願いします)。	保護者の希望を勘案し、日程調整が可能な範囲で検討します。

分類	番号	意見等	市の回答・対応方針
保育園	3	保育園のお泊り会 市立保育園のお泊り会に、保育課のご理解をいただき、先生方のご協力を得たい。	父母会の親子ふれあい事業にバス借上げ料の補助をしており、職員の時間外の援助については責任の所在から困難です。保育の姿として、どこまでやるべきかなど、保育運営の内容について、意見交換の場が必要と考えています。
学童クラブ	1	学童保育を充実してほしい。 (理由)「あそべえ」は賛成できない。果たして子どもたちにとって、広っぱ的存在になっているのだろうか。水曜日には、コミセンに遊びに来る子どもが多い。低学年が多く利用しているようだとしたら、学童を充実し、誰でも行ける所にしてほしい。同じようなものをなるべく作らないでほしい。	本市では、学童クラブを1学校区に1箇所設置し、直営で運営しています。学童クラブ事業は、小学校低学年児童を対象に、保護者の就労や疾病等により、放課後家庭において適切な監護が受けられない児童の安全確保と健全育成を目的として実施しています。学童クラブの子どもたちは、放課後の生活の場として、指導員のもとでいろいろな遊びを行い、のびのびと健やかに過ごしています。また、18年度より障害児を4年生までお預かりすることにいたします。今後も、地域子ども館「あそべえ」と連携を図り、学童クラブに入会していない子どもたちとの遊びやイベントを共有して、よりいっそう充実を図ってまいります。
	2	障害児の学童クラブを作ってほしい。 (理由)障害児(高校生まで)は、遊びに行く場所や手段が大変限られています。休日は、親が丸抱えで世話をしています。安心して豊かな余暇を過ごせるよう、障害児の親が少しでも楽になるような学童クラブを望みます。	障害児の放課後対策については、長期計画調整計画の中で検討します。
	3	学童保育クラブに、土曜開所、夏季休暇など、学校休み時、8時30分開所を行ってほしい。 (理由)土曜日保育を必要とする親は確実にいるため。8時30分スタートは、防犯面からも必要と思われるため。	長期計画調整計画策定の中で検討します。
小・中学校教育	1	校舎を木造にしてほしい。 心・体の安全面からも、昔ながらの木造校舎に改築してほしい。コンクリートでは50年しかもたないと聞いています。三小はだいぶ古くなっています。少子化で子どもの人数が少ないのであれば、規模を小さくすれば木造も可能でしょうか。	100年校舎を目指して改築しております。内装には木材を多用しています。
	2	6・3・3制をしっかりと！ 周りの市区で小・中一貫などあるが、成果が上がっているように思えない。 6・3・3制は発達段階をよく考えている。 学ぶ意欲→知識の獲得＝判断力・思考力…定着させるのには時間がかかる。＝小学校の6年間でしっかり定着させていく必要がある。	義務教育9年間を見通した教育の一層の充実に努めてまいります。
	3	小・中学校を少人数学級にしてください。 少人数授業では、教科ごとにクラスが変わる。それより、少人数クラスにして、毎日の毎授業に、先生の目届くように。 学校によって26人クラス～41人クラスの差ある現実を変えて。	本市では、少人数学級ではなく、少人数指導の一層の充実を図っていきます。

分類	番号	意見等	市の回答・対応方針
小・中学校教育	4	幼稚園、小学校で、エコロジー、ごみ問題についてしっかりと教育していただきたい。	現在、小学校4年生を対象として「ごみと環境」という副読本を作成して啓発に努めていますが、今後も、環境教育の充実に努めていきます。
	5	小中学校の教科書選定について「新しい歴史」(扶桑社)の採用の見直し(教育委、教員)と市長の考えは？(私は断固採用すべきと思っています)	教育委員会の責任と権限において、公正かつ適正な採択に努めます。
	6	小・中学校の入学・卒業式に、全議員に招待状を出してほしい。 君が代斉唱に協力しない議員にも招待状を出してほしい。	議員の招待については、各学校長の判断で行っています。
	7	地方と同じように、一つの学校に一つの心障学級(特別支援教室)を設置してほしい。 (理由)自分が住んでいる地域の中で、地域の人とともに子どもを育てたいです。ハンディのある子が苦勞して遠い学校に行くのではなく、学区の学校に特別支援教室を作ることによって、適切な教育を受けられるようお願いします。	特別支援教育に関する制度の動向や児童の実態を踏まえ検討していきます。
	8	全ての子どもが平等に教育を受けられる体制を作っていただきたい。 ①特別支援教育の事…特別なサポートを必要としている子どもに対する適切な支援 ②障害児学級の事…南町に障害児クラスを。また、健常児とコミュニケーションできるような場作り ③少人数制クラス、副担任制の実現	①特別支援教育に関する制度の動向や児童の実態を踏まえ検討していきます。 ②教育委員会で、障害児学級を東部地区に設ける計画が検討されています。また、健常児との交流は今後とも推進していきます。 ③地域や学校の実情に合わせた柔軟な取組を可能とし、これまで進めてきた少人数教育を一層充実していきます。
	9	中学校給食は、コストを明確にして検討して。 小学校の給食は、全てのコストを計算すると、1食あたり1,200円かかっていると聞いています。コストを情報公開の原則から、きちっと出してほしい。	中学校給食のコストについては、中学校給食実施の検討の中で検討します。 なお、小学校の給食にかかる1食あたりのコストは低学年917円、中学年927円、高学年937円です。このうち、学校給食法に基づき食材費を給食費として低学年220円、中学年230円、高学年240円を保護者からいただいています。 定期的なコストの公開については、どのような形でできるか検討していきます。
	10	中学校給食を4月から実施してください。子どもが楽しみにしています。親も待っています。1日も早く。	18年度に保護者や市民の代表を交えた検討委員会を設置し検討し、19年度を初年度とした中学校給食実施計画づくりを目指します。
	11	中学校給食を早期に実現してください。	